

メガソーラー反対運動推進団体が 茅野で全国シンポ

参加報告者 古瀬 健(県連顧問)



(全国シンポジウムで諏訪市郊外の計画について説明する参加者とパネリストら)

大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設に批判的な市民団体などが10月8日、初の「全国メガソーラー問題シンポジウム」を茅野市民館で開きました。諏訪地方の「太陽光発電問題連絡会」などで行う実行委員会主催で、県内外から約500人が参加。メガソーラー建設計画への反対運動を展開している団体が事例報告をし、理解を深めました。この集会に県連盟の自然保護委員長の菅井修と顧問の古瀬健が急遽出席しましたので報告します。

「FIT法【固定価格買い取り制度(Feed-in Tariff, FIT)】の何が問題か」と題して、長野県富士見町の太陽光発電事業を考える会の佐久裕司さんが問題提起をし、高田宏臣さん(千葉県在住の造園土木家)が「現代土木の限界と災害、大地環境の仕組みから、メガソーラーの問題を診る」と題して、基調講演を行いました。メガソーラーは地形の安定性を保つ自立的な自然の仕組みを破壊するものと断じました。

「メガソーラーをやっつけろ！ ～闘う住民のための十訓～」と題して、駒ヶ根法律事務所の梶山正三弁護士が支援してきた沢山の事例から得た十訓を披露し参加者を激励した。その十訓とは

①幻想を捨てよう（ソーラー発電はダーティなんだ。ソーラー発電は石油火力発電より石油を使うし、CO2を出すんだ。ソーラー発電の推進は原発推進の口実づくり）

②戦略を持とう ③圧力団体になろう④出し惜しみをするな！敵を知り尽くす ⑥合法的実力行使を！⑦行政不信のススメ ⑧できてしまってもあきらめない ⑨行政基準は諸悪の根源 ⑩絶望からの出発

事例報告は、長野、千葉、静岡、愛知、三重県の5団体が行いました。

茅野市の「米沢地区L o o p ソーラー対策協議会」は、諏訪市郊外の霧ヶ峰高原近くに計画されたメガソーラーについて報告。柴田豊会長は計画地一帯には米沢地区や諏訪市の水源があるとし、「メガソーラー建設で水の質と量に問題が起きる恐れがある」と訴えました。

森林約146ヘクタールの伐採を伴う計画がある千葉県鴨川市の住民団体代表、勝又国江さんは、メガソーラー建設によって森林が失われ、自然環境に悪影響を及ぼすと主張し、「業者が倒産すれば『はげ山』が放置される」と強調しました。

事例報告をした5団体の代表によるパネル討論もあり、進行役を務めた実行委事務局の小林峰一さん（諏訪郡原村）は「メガソーラー建設は、地域の自然環境や平穏な暮らしが脅かされる計画だということも感じてほしい」と参加者に訴えました。

参加団体は、今後も同様のシンポジウムを開き、団体同士の連携を図っていく方向も確認しました。

全国での、最近の主なメガソーラー反対運動

- ・栃木県日光市
市民団体が反対署名 6,931 人分を市議会に提出
- ・三重県志摩市
地元住民 漁協が中止を求める要望書
- ・高知県土佐清水市
大岐地区の新設計画で住民が市へ指導要望
7 団体と個人が施設建設への不同意書を県に提出
- ・京都府南山城村
メガソーラー建設に地元自治会が反対
- ・栃木県鹿沼市
市民団体が市へ建設差し止めを求める署名提出
- ・岡山県岡山市
市内の山林で浮上した整備計画に住民が反対の声
- ・長野県飯田市
風越山での整備計画に住民が中止要望書を市に提出
- ・静岡県伊東市
八幡野地区の設置計画に市議会が反対決議
- ・香川県土庄町
豊島で地元住民が反対運動
- ・滋賀県高島市
メガソーラー建設反対の署名を住民が市に提出
- ・福岡県飯塚市
白旗山の計画に対し、住民が反対署名を市に提出

「メガソーラ建設から、房総の自然を守る」運動に参加しよう！！

県連は「鴨川メガソーラ建設中止を求める会」と協力して、メガソーラ建設中止の署名に取り組んでいます。全会員の署名をお願いします。